演奏に役立つ One Point Lesson

FLUTE

フルート

飯島和久 いいじま・かずひさ

◆出身　逗子開成高校、パリ・スコラ・カントルム音楽院、パリ・エコール・ノルマル音楽院
◆所属　上野学園大学短期大学部教授
◆趣味　畑、薪割り、料理
◆血液型　B型
◆星座　かに座
◆読者にひとこと　私にできたのだから皆もできる！
◆手紙の送り先「飯島和久」で検索（PCのみ）

フルートの最大の味方、ヴィブラート!!

みなさん、ヴィブラートはかけられますか？　かけられる人でも、正しいヴィブラートをかけていますか？

私が高校の吹奏楽部にいた頃、先輩がヴィブラートをかけていたので「ヴィブラートのかけ方を教えてください！」とお願いしたら、「心があったらかかるよ！」と言われてしまいました。(>_<) それはともかく、フルートを始めて半年ぐらい、下から上までの音がだいたい出せるようになったころからヴィブラートの練習を始めてよいと思います。それは、「ヴィブラートの練習」イコール「美しい音のための練習」にもなるからです。

ところで、ヴィブラートが自然にできるようになった人は、実際は身体のどこが揺れているのか、自分でもよくわからない人が多いのではないでしょうか？　また、「正しいヴィブラート」になっているかも要注意です。ノンヴィブラート（音を揺らさず、まっすぐ吹くこと）ができ、ゆっくりから速くまで揺れの波を自由にコントロールができる人は、正しいヴィブラートをマスターしています。ヤギさんヴィブラート（メェ〜〜〜という感じのもの）のように、「どうにも止まらない！」人はすぐに直しましょう。

■ヴィブラートの練習

ヴィブラートをかけるためには、次の4ステップで練習してください。

①まずは中音域の吹きやすい音から始め、高音域、低音域でも練習しましょう。**[譜例1]**のように「フッフッ」とメトロノームに合わせ、四分音符、八分音符、八分三連符、十六分音符と速度を速めます（フッフッのときにおなかがへこまないように……。むしろ下に押し下げるような感覚で行なってください）。

②次に音をつなぎ「∧∧∧」のように *f* と *p* を大げさに繰り返し（たとえば、皿を割ってしまったとき「あ〜あ〜あ〜あ〜」と言ってしまうように）、やはり四分音符、八分音符、八分三連符、十六分音符と速めます（**[譜例2]**）。

③次に**[図1]**のように四分音符ぶんくらいの長さの周期から十六分音符ぶんに速め、そしてまた四分音符ぶんまで速度を落とす練習を一息で行ないます（この時点ではまだ、*f* と *p* を波を大げさに繰り返します。

※実は、横隔膜→のどでかける!?

ここまでのことは、どの教則本にも書いてあるかもしれませんが、深いヴィブラートを練習した方の多くは「ヴィブラートって疲れるし、たいへんすぎる！」と思っているのではないでしょうか。でも実は、ここからが仕上げなのです。おなかの横隔膜を使ってヴィブラートの練習をしていましたが、最終的には、のどの声帯でヴィブラートをかけるのです。横隔膜を使うことによって声帯が連動して動くので、まずは横隔膜の練習をしたわけです。

④実際のところ、曲中で使うヴィブラートはそんなに深く揺らすものではなく、もっと浅いものです。**[図2]**のように、まずノンヴィブラートからゆっくりと、自分ではあまり揺れている意識がないくらいの波から作ってみましょう。白鳥が水面を静かに通ったくらいの波です。それから加速しますが、決して大きい波にならないように、だんだん速くします。どうでしょう？　非常に楽にヴィブラートがかかりましたね。(^_^) これが正しいヴィブラートです。

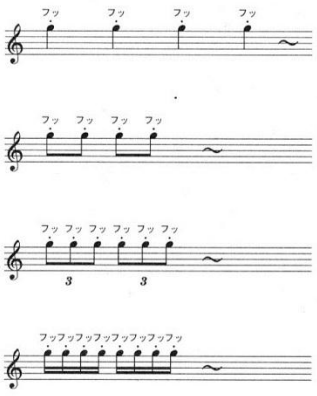
■ヴィブラートの応用

ヴィブラートは、基本的には伸ばしている音にはかけますが、十六分音符などの速い音符にはかけません。テンポにもよりますが、全音符、二分音符、付点四分音符にはかけるとよいですね。また、四分音符、八分音符のスタッカートにもかけると、とても生き生きとした演奏になります（聴いている人には揺れているのは聴こえませんが、明らかに違いがあります）。そして伸ばしている音でも、ゆっくりから速く（クレッシェンドなど）、また、速くからゆっくり（ディミヌエンドなど）かけることで音楽表現が豊かになります。

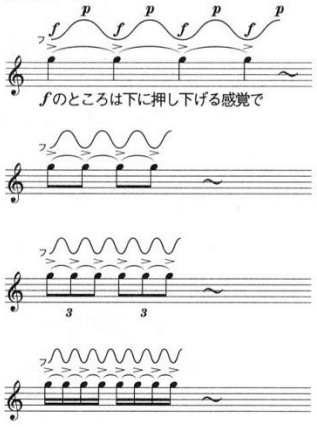
フルートの最大の味方、ヴィブラート！みなさんも身体の一部になるよう練習してください。(^ ^)/

次回は「テクニック」について書きます。

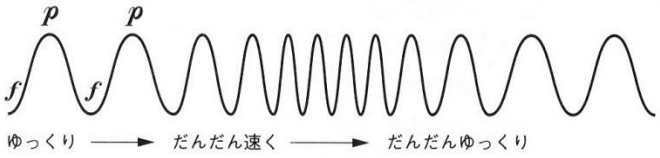
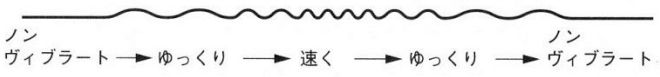
[譜例1]



[譜例2]



[図1]



[図2]